

平成24年度 第1回町民フォーラム グループ討議発表内容

○1グループ

1グループでは、3つに絞ったところで、まず1番重要度が高く緊急性も高いと思ったのが、P4の②「集積された地域資源活用」ということで、具体的な取り組みとしては、体験観光の運用作りと販売。あと、今ある既存の観光協会の独立した法人化。あと、それぞれのイベントを施設が行っているんですけども、そういう単発ではなくて、同時的・集約的に1週間キャンペーン期間とかを設けて、同時的にイベントを起こすと。

○ぎょうせい

それは、年間ベースですか？3シーズンとか、1シーズンとか。

○1グループ

夏とか秋ですね。そういうふうにシーズンを絞って、イベントを起こすと。それを集中的にやって、スタンプラリーとか色んなその施設を回った人に対してはそういうプレゼントをするとかそういうふうな付加価値をつければいいかなというふうに思いました。

次が、同じくP4の⑥「ブルーツーリズム」「グリーンツーリズム」「エコツーリズム」の推進、ここが会の中でも思いまして、具体的な取り組みとしては、知内のかきなら祭のような外のイベントを開催して、人を集めると。あとは、取り組みと言えるのかは分から

ないですけども、農業とかの作物ですね。例えば干軒そばとか、とうもろこしの味来とか、昆布、イカ、ブルーベリー、黒米とか今やっているのがあると思うんですけども、その生産量をもっと増やした方がいいのではないかと。

○ぎょうせい

例えばその生産量を増やす時にどんなことが考えられますか？

○1グループ

一番端的なのは、助成するとかですね。お金を町が出すとか。

○ぎょうせい

町がお金を出す。じゃあ住民側は？

○1グループ

住民側は、自分達が新しい食べ物を知って口コミでPRしてもらいますね。

○ぎょうせい

やり手は居そうですか？担い手。

○1グループ

それも募集してみて、外から集める方法もありますし、広報とかにこういうふうな事業を今やっていますよとPRをして、高校生にやってもらうとか、そういうこともあると思いました。

○ぎょうせい

それじゃあ福島商業高校と連携をして。

○1グループ

連携してというか、こういうふうな

ことを実際福島町でやっていますと
というような、福島商業高校の方でもど
のような事業をやっているか知らない
という話があったものですから、そ
ういうふうな情報提供が必要ではな
いかというような意見がでました。

○ぎょうせい

それは、今の提案書の中に書いてく
れてある？

○1グループ

それは、書ききれなかったので書い
ていないですけれども。

最後に、3つ目なんですけれども、
P3の④ですね。「町内の企業情報や求
人情報の一元的な提供」ということな
ので、取り組みとしては求人情報の明
確化、結構口コミ等で求人をしている
部分もあるのではないかという話
がありましたので、それをきちんと明確
化をします。

○ぎょうせい

例えばその場合、明確化をするとい
うときには、どういう手段を使って明
確化をしますか？

○1グループ

1番いいのは、ハローワークみたい
な求人票みたいなかたちで、紙にきち
んと書いてもらって、役場とかどこか
情報を取りまとめるところが、一元化
で取りまとめして、ホームページ等
で発表するとかですね。

○ぎょうせい

他のグループもそうなんですけれ
ども、たぶん次回は合同委員会をやり
ますよね。そうすると、諸先輩方はそ
れをどうやってやるんだとか、どうす

るんだと当然質問が来ますよね。そう
すると、その時にグループの意見とし
て自分達はこういうことを議論して
いたということが、相手に伝わらな
いと、上手くないよね。今日は初めての
場だから、これでいいですけども、
これから進めて行くときに状況がそ
ういうことになるから、なるべく例え
ば紙ベースで明確化をすとか、ホー
ムページを使うとかということが、項
目で書いてあると、見たときに相手も
紙でやるのか、ホームページでやるの
か。あるいはどこかに何か募集板、あ
るいは掲示板を使うかというのがイ
メージが出てくるから、そういうこと
が少し箇条書きでいいから書いてあ
ると、助かるね。

○1グループ

あと、それと同じ情報を、さっきと
同じ話でかぶるかもしれませんが
ども、福島商業高校の方にもきちんと
提供をします。住民の役割の点につ
いては、そこまで話し合いといいます
か、意見の集約ができませんでした
ので、以上で発表の方を終わらせて
もらいます。

○ぎょうせい

ありがとうございます。それでは、
2グループお願いします。

○2グループ

2グループは役場の人達ばかりだ
ったんですけれども、あまり真面目な
話をしないで終わりました。さっきの
1グループの話と雇用の関係とかあ
あいうのはかぶる場所もあるん
ですけれども、まずうちで話をした中

番緊急性とか、重要性が高いと出たのが、1-③の娯楽とか生活施設の中でのカフェとかファミレス的な感じでさらにかぶるのが、2-③の地域の食材とかですね。あと、2-①の取り組みによる職場を作るといような感じでいて、今道の駅があるんですが、そこら辺、場所はまだ色々話している最中だったんですけれども、そこで物を食べられるとか、そういうふうな気軽に行ける場所がどうだということで、話の中にあっただのが、今町内商店さんの方とかでも個々で美味しいものはあるんですが、それを取りまとめているといような場所がなくて、話の中に出ていた言い方だと、点で存在していて、それが線でつながっていないといような話があったんですね。なので、そういうふうなものをつなげる場所でさらにそこをカフェみたいな形で運営をしていくような形になれば、自然と雇用もそこで生まれてきますし、そこを交流の場として若い人とか。確か高校生の前回の会議の中でもそういうふうな場所がほしいというのがあったので、そういうふうな部分でも解決をするのかなというのがあって、そこが一番重要度が高くて緊急性も高いということで設定をしました。緊急性が高いといのものも、緊急性自体が高いかといったら、ものすごく高いわけではないのかもしれないんですけれども、そのカフェを作るといようなものだけで見れば、コストがそこまでかからずに出来るのではないかなと、勝手な考えなんですけれ

ども、そういう話もあったのですぐに出来るのかなという形で考えていました。

○ぎょうせい

それは、今の提案シートのどの辺までそのことが書いてありますか？取り組みとして。口頭発表だとこの提案シートにならないよね。

○2グループ

あとで、もう一回見直してみます。話をしているときにはそのあたりも全部話をしていたんです。

○ぎょうせい

例えば、点としてあるんだよという時に、点として何があるかということを書いてあれば。

○2グループ

何があるかというところまではそこに書いてないですね。

○ぎょうせい

それがないと、何があるんだよと聞かれたら詰まるじゃない。だから、最初に6W2Hを考えてくださいねというのは、どこに、いつ、どこで、誰が、というのが前提としてあるから。無かったらこれは、いつ、どこで、誰がやるんだといところがないと。これは、今度は提案をしなければいけない時だから。そういう視点で、今グループの人は、さっき話をしたのが書いていないなとあればうめてください。発表しながら片一方の方はうめてください。

○2グループ

分かりました。これから、うめて見たいと思います。次なんですけれども、

せっかく今のカフェの話して食の話しが出たので、次に、2-④「福島町の家庭の食をブランド化」という所が出ていましたので、そのこの部分はどういうふうにしようかと話をしたときに、食のブランド化までいく話ではないのかもしれないですけども、まずその前段でコンテスト的な感じでブランド化というか、何を売り出すかというのを逆に町民の人方から募集して、それで賞金をつけてもいいと思うんですよ。そういうので、コンテストを開いて募集をしてみるというのも一つの手かなと。そこからまた発見をする部分もあるでしょうし、そういうふうな形で作るのであれば、コストもそんなにかからないし、話しの中にあつた例であれば、10万円くらいであれば、皆もそれなりに食いつくだろうと、100万円くらいだとまたおかしくなってきたりするから、という話があつたので、そういう形でやってみると、色々ちょっと楽しくできるのかなという話があつたので。ということでした。

次にちょっと話が変わりまして、さっきの1グループの人達と話がだいぶかぶるんですけども、1-②と3-①の雇用の情報の関係ですね。管理とか発信の関係で、先ほどお話をしていたように、ハローワーク的なものということで、私達も少し話がでたのが、ハローワークのようなものを、場所を置くのは役場でもいいとは思いますが、その団体は独立したもの、役場の中でやるとか職員がやるとか

ではなくて、本当にハローワークみたいな形で独自で動くような格好でということをやると、そのものを作ったら、そこで雇用も生まれますし、さらに雇用という形になると、日々動いたりする部分ですので、そのこの部分を町内だけではなくて、近隣4町の細かい雇用の動きとかを見てハローワークにあるような形で、うちで話をしていたのはどちらかということ、ホームページで載せるとか、ネット配信ではなくて紙ベースという形ですね。そこに来てもらって、台帳じゃないですけども、そういうふうなやつで見てもらって話をするというような形。さらに、来てもらった時には1-⑤にもなるんですけども、就労機会の関係、安心して就労できるというようなところで、相談窓口的なものもそこでやると、それも合わせてうまく解決が出来るのではないかなという事で考えていました。以上でございます。

○ぎょうせい

ありがとうございます。いくつか質問があるんですけども、職員の方が多いということなので、あえて質問をすると、今の中で言うと例えば課題2の中の④の食のブランド化という話を今、しましたよね。そうすると、この町ではホームページを見ると、農村生活改善グループの人達がこのレシピを作って書いているじゃないですか、ああいうものとどうやって連携をしていったら、どうやってあれを活用するかという所は考えてみたことはありますか？というの、自分達

の町で何が起きているか、何をやっているかというのは、町の職員の方は課が違ったとしてもまずそこに目がいくと、これは町内ではブランドにできないんだと。だけど、これは健康のためにいいんだとか、あるいはこれがブランド化するためには、こういうところと連携すれば、ブランドが出来るのではないかと、比較的コストがかからないじゃないですか、特にこういう食の問題で今凄く重要なのは、介護保険の問題があって、高齢者がなかなか食事ができない。そうすると、そういう人達にどういふ食事を提供するかというの、食のブランド化の一つにつながる可能性があるんですよ。だからそういうものが自分達のテーマが何か出てくると、なりようがあるじゃないですか、せっかくここで何かを考えたときに、他のグループが何かやっている、じゃあそこと協力をしようということがどこか備考欄にあると、今度政策化するときにそれが本当に可能かどうかということを検証もしやすいよね。ぜひ、そういう視点でも次から。特に自分の町が何をやっているかというのは、なるべく職員たちは広く、どうしても日常自分の業務に追われちゃうから。そうではないようにしていくと、我々外から来ると例えばホームページを見ても色んなことをやっているけど、それをつなげばいいじゃないというのがいっぱいあるわけだよね。それは、職員の人気が付いてくれないと住民はなかなか気がつかないね。そんなことでお願い

します。次、3グループお願いします。

○3グループ

第3グループでは、重要度が高いということで話し合いをいたしました。一つ目だったんですが、課題1の②です。「若者女性等への就労支援の拡充」ということで、商業高校でも町内の企業さんとかへ行って、職場の体験、インターンシップは行っているんですが、もっと幅広く各事業、ようは漁業ですとか、農業その他の事業に幅広く体験をしに行くということで、もしそれが叶わなければ、福島町にない企業さん。町外だとかになるんですが、体験としてみるのもいいのではないかと、という話が一つ出ました。あと、就職就労する上で、有利となる資格の取得講座だとかを、長期的に一般町民に向けて行うものいいのではないかと、いう話も出ました。あと、福島商業高校が商業ということで、専門的な学校になっているので、商業高校を出ていない方だとかを対象にした、商業的な技術取得の講習会だとかを開いたりするのも町内の働いている企業者さん限定になるんですけども、会計だとかその関連をしている方にとっては、大変勉強にもなるようなことではないかということで話が出ました。

○ぎょうせい

今この町では、福島商業高校の生徒さん達が、この町でなにか職業体験を出来るようなことはやっているんですか？

○3グループ

やっています。

○ぎょうせい

それを例えば拡大をして、若い女性だとかお母さん方にとということも、今の発想の中にあるわけ？

これは、高校と職場、企業だけの形ですか？

○3グループ

その形なんですけど、枠にとらわれないというんでしょうか、団体さんとかでもいいですし、漁業者さん農業者さんでもいけるような、体制をつくれれば幅広く、仕事という職種という例での探す上では、幅広い面を持ってみていけるのではないかなと。

○ぎょうせい

それは、極端な例を言ってしまうと、例えば夏休みって高校が空いているじゃないですか、教室が。やってくれるかどうかは別ですよ。学校の先生方に頼んで、商業高校の。例えば生涯学習、この町も色んなことをやっていますよね。そういうのを、高校を使って高校の先生方に協力をしてもらって、何かやるというような発想なんかも出来ないでしょうかね。いきなりこれを書けということではないですよ、例えばそういうことができないですかねと、あるいは町の役場の職員の皆さん方が自分のやっている部分をそういう中で町民の方に呼びかけて、今こんなことを町で自分はこんなことをやっているんだと、一緒に勉強をしませんかと。そういう所から段々参加をしてもらっていきながら、今おっしゃったようなキャリアアップ講座みたいなものにつなげていくということも

考えられる可能性はあるかな。これは、彼に聞いているのではないよ、このフォーラムに参加している人に聞いているんだよ。

例えば、色んなところでジョブカフェみたいなものを行っているじゃないですか。そういうのを福島版のジョブカフェみたいなことをやってみるとかというせっかくここにいくのならね。そうすると、たぶんそういう話をすると、このまちづくり推進会議の人達もそういうことで、関心を持っている人達だったらまた何か意見を言ってくれるかもしれない。途中で折っちゃってごめんなさい。

○3グループ

その②の中で、助成のニーズに応じたキャリアアップ・キャリア活用の機会ということで、モニターといいますか、そのブログだとかを独自で発信をしていただいて、町のそのいいところを売っていただくと。その売っていただいた方には、給料的なものをちょっと発信して、ようはいっぱいその町内向けに発信をする方の仕組みを作るのも面白いのではないかなという話が出ておりました。

次が、課題1の③ということで、「生活店舗、娯楽施設の誘致、豊かで潤いのある生活環境づくりの推進」ということで、それで出た内容が1件しかなかったんですけども、地元にはしかない、ブランド化みたいな形なんですけど、ファミレス的なものをつくって、そのレストランについては地元で獲れた食材のみしか使わないというような

飲食店を作ることもあれば、その他の特産品のブランド化ですとか、道の駅だとか、客集・観光PRにもつながると思いました。続いて、もう一つも重要だと思われるのが、課題2の②の周知された地域資源の活用ということで、私も今商工観光担当なんですけど、特産品としては、昆布だとか色々あるんですけど、道の駅も小さいということもありまして、外向けの発信が上手くできていない状態なんです。それで、各種特産品だとか、トンネル記念館のトンネルのPRですとか、横綱記念館のPRだとかを一括で出来るような飲食店なども取り入れた合同施設をつくると、町のPRにつながるのではないかとということで意見が出ました。

話の内容は少なかつたんですけども、3班の中で出た内容でした、以上です。

○ぎょうせい

ありがとうございました。それでは、4グループお願いします。

○4グループ

4グループからは、かぶっている部分があるので、全部で4つになります。

そして、まず一番重要だなと思ったのは、課題1の④「町内企業情報や求人情報の一元的な提供」ということで、まず前に書いてある、水産業の町としての水産業で所得を得られることの情報発信という部分では、うちのメインが昆布の養殖事業になっていますので、そういう部分で実際に経営はかなり安定しているのが現実になっていますので、それを事業マニュアル的

にして、外向けに発信をできないかなとそうすると、どれくらいの規模でどれくらいの収益があってどれくらいの所得が見えますよというのが、見えてくるのではないかなと思います。この部分は、漁組だったり漁業者あと役場もおそらく手を加えていかなければならないと思いますので、その人達に協力を仰ぎまして、経費のモデル的な算出といいますか、そういうものを作りまして、マニュアルを作成すると。おそらくこれは、素人ではなかなか難しいので、今連携を結んでいる未来大や東農大。これから予定をしている北大さんなどの力を得ながらこの部分は作成をしていけるのではないかなと思います。そして、後半の部分で町内企業の求人情報等を若者に一元的に提供するという部分なんですけれども、うちの班では、若者にと部分に特にこだわって、今うちの町のホームページでメールマガジンというのはあるんですけども、実際にあまり活用されていないというか、登録が少ないという現状にあります。それを何とか上手く活用して、例えば各事業所の求人情報。例えば6月末～8月中旬くらいまで、昆布のアルバイト何人必要ですというのを漁組なんかでとりまとめをしてもらって、それを町でうけて、求人情報を発信するメールマガジンのようなものできないかなと考えました。これは事業所なり漁業者なんか理解してもらえればすぐにでもできるのかなと考えていました。この部分は以上です。

○ぎょうせい

一つ今のところで質問をしていいですか？水産業の町だから、昆布ということでこれを稼げるよというのがいいんですが、例えば今おっしゃったように実際にそれを事業にしている人達がそういう自分達の分野で人材をほしがっているんですか？

○4グループ

実際に、近年の状況を見ると町内の人口も減っていきまして、若い人達もいなくなっているの、昔であれば高校生なんかアルバイトで来ていたんですけれども、今高校生も少なくなった中で、雇う人を見つけるのに大変だという声も実際にあるんですよ。そういう部分では、もしかしたら活用もされるのかなという形で考えていました。

○ぎょうせい

ちょっと今気になったのが、せっかく自分達の仕事としてあって、労働力もまかなえていると、そこにまた新たなことでそういうことをやってよけいなことをしてくれるなど、事業者の方から反対の意見があったら困るなと思って聞いたんです。

○4グループ

もちろんそれは、欲しい方だけに情報提供をしてもらうという、例えばもう人がいるのでいりませんという方はとりまとめをしない。そこはあくまで申告制という形で、漁組なり例えば農業であれば、農協なりということで、核となって情報を収集してもらうという形です。

○ぎょうせい

それは、可能性がありそう？というのは、凄く興味があるから聞いているんだけれど。

○4グループ

昆布なんかは実際に困っている人もいるので、もしかしたら何人か件数的にはあるのではないかなと思います。登録に関しても、働く場所がなくて暇をしている若者もいるでしょうから、その人は昆布のアルバイトにいらただけでも雇用に繋がりますので、お互いに助かる面があるのかなという形で考えました。

○ぎょうせい

特に、事業マニュアル化するという話になってくると、そのことはかなり利害関係が発生するじゃないですか、凄くいいことなただけでも、私もそういうことがあったら福島にとっては凄くいいだろうなと思うけれども、もしかするとね。これは、駄目だということではないんですよ。そういう反発が強そうなことをいきなり言ってしまうと、という気がしたものだから。

○4グループ

これは、おそらくこれをなかなかしないと町外から入って来たり、若者が地元に残るとというのが、現実として難しいのではないかと。やはり、所得が見えるというのは大きなPRポイントになるのではないかなということで。

○ぎょうせい

それができれば、食のブランド化にもつながるもんね。

○4グループ

そうですね。それで、若者の定住にもつながると思いますけれども。

そして、2つ目です。課題2の「新たな産業の創出」これが、③④を4班では、一つ、同じということで結果的に考えました。どちらも食に関する項目になっております。この③の部分ですね。「食」をテーマとした新産業の育成と地域内回遊性の創出ということなんですけれども、うちは今自慢して福島町はこの食だというものが無いものですから、地元飲食店にちゃんと真剣に考えてもらって新商品を開発してもらおうと考えました。ただ、現状を考えると、なかなかリスクを冒して新商品を開発というの踏み切れない状況にありますので、その部分を行政でバックアップできないだろうかということを考えました。住民の役割としては、やはり町内の飲食店に集まってもらって新商品を検討してもらおう。それに対する経費なり材料を行政でバックアップして補助できないだろうかということです。例えば、話ででたのは、うちは今農業でいけば黒米が段々知名度が上がってきております。それを使って例えば町内飲食店の方に黒米を使って材料を提供するので、これで新商品を開発してくれということもありなのかなということ考えました。それが、後々は成功するとB級グルメなんかにもつながって行けるのではないのかなということで、これを一つに考えました。

○ぎょうせい

今、最後にちょっと安心したんだけ

れども。安心したというのは、黒米なんかは、例えば材料、原料を黒米を飲食店に提供をして使ってくれということであると、納得し易いんですけれども、何かをやるたびに町が補助を出していくということは、我々コンサルの立場からみると、止めた方がいいよというのがあるんですよ。お金をくれなければやらないというのは、商売にならないんですよ基本的に。そういうものをいくらやっていっても、これはブランドとして育てようとか、あるいは一つの大きなものにしようという時に、駄目なんですよ。補助金がなくなったら事業者はやらないよと大体になってしまうから。ここの人は違うかもしれませんが、多くの町で失敗するのはそれなんですよ。

○4グループ

うちも今までの失敗事例で多いのは、町の補助事業が切れたから辞めたというのが多いんですけれども、こういった形で新商品を開発してもらって店で出せるようになれば、それなりに続くのかなと思ったんですよ。だから材料だけ提供してメニューを作ってもらおうということであれば、おしながきにのりますから。それで普通の補助事業とかよりは続くのかなという形で考えました。

○ぎょうせい

たぶんお金を出すということが、一番安易で失敗が高い。ただし、そこでアイデアを出してあげるとするのはいいですよ。例えば、広報をしてあげるとか色んなことをしてあげると

か。今この町のホームページを見ても色んなことをやっていますけれども、そういうところに出ていると。そうすると、それを見た人はこういうことがあるのかなと、即効性は凄く少ないけれども、それで広がっていくと本当のブランド化というのができる、お金を出すとそこで一挙にちょっと大きくなるんだけど、切れたとたんに切れちゃう。これは、決して産業育成にはつながらないからね。

○4グループ

今の二つ目の部分は、以上になります。最後の3点目ですけれども、同じく課題2の⑤「地元木材を活用した林業の活性化」という部分で考えました。この取り組み内容として、4班で考えたのは、地元木材、特に杉が多いんですけども、杉材を使った木育の推進をできないだろうかということと考えました。例えば、地元の木材をうちは製材所がないので外へ出す形にはなりませんけれども、その地元の木材が例えば総合体育館の一室を貸しきって、一年中貸し切ってそこで木材に囲まれたスペースを作れないだろうかということと考えました。これは、地元には、無いスペースですので、町内だけではなくて、町外の方も来てもらえれば、交流人口も増えるのではないかなと思いました。雇用の部分では、今林業の方が進んでいけませんので、こういうことをやることによって、林業者が入って来たり、もしかしたら地元から育って行くかもしれないという雇用の可能性として考えました。

実際にやるとすると、おそらくこのメニュー的なものは、色んな補助であるのかなというのがあります。先ほど言ったように補助が切れるとなくなってしまおうというのがありますけれどもまず補助を使った中で、いいものかどうかというように進んでいくと思うですね。一つの手かなと思いつながら、この部分は検討をして見る余地があるのではないのかなと考えました。
○ぎょうせい

例えば、これは古い話で申しわけないんですけども、熊本県の黒川という町、あの町がドームの町づくりというのを昔やったんですよね。今から30年くらい前かな。そのときに地元の木材で、施設を作ったんですよ、体育館を。その時に、柱一本一本が1m20cm仕様だったか、全部町民が買うんですよその木材を。それを組み立てて、町の体育館を作ったんですよ。それは何かというと、そこに全部何年何月何日生まれの何々さんの柱と書いてあるわけです。それで、ドームが出来るでしょ。そうすると、今度は自分の名前が書いてあるというのでお客さんが来ると、俺の体育館があるんだと。ここに自分の名前が書いてあると、それを今度は改修するときはどうするかということ、木材ですから当然取り換える。それから、その人が亡くなる可能性もありますよね、亡くなるとその人のお子さんとかお孫さんがそれを引き継ぐと、例えばそういうことをやって町おこしをやっていったという事例なんかもあるわけですよ。そう

すると、木育と考えたときにそういう木材があるのかどうかというのはあるけれども、それからよく橋の欄干が今皆コンクリート化されているのをわざわざ木材でやっている所もありますよね。だからそういうことも含めて何か、何でもいいから、こんな事例があるからこういうことができないかということがあるといいね。

○4グループ

実際にうちの杉材なんかをみると、太くはないので、あまり大きな角材としては使えないんですよ。また、虫食いも多いですので、あまり木材としてはいいものではないんですが、例えば小さい丸い木材にするとかであれば、その部分には関係ありませんので、やはり小さな玩具、木材を使ったおもちゃを中心に加工することが適しているのかなという形で考えました。あまり大きな角材となるとうちは使えないという話も聞きますので、そういう面で、使えないものを使えるような形で出来ないかなと思っています。以上です、ありがとうございました。